



息苦しさやをなくし、誰もが気持ち良く呼吸できる社会を目指したい。

札幌市で0歳児からシニア層まで対応した福祉サービスに取り組む

株式会社er



クリスマス会のパフェづくり「個育てサポートしろくま」



株式会社er
代表取締役
瀬戸口 暦さん

埼玉県生まれ。2歳のときに来道、恵庭市・札幌市育ち。他県にて看護師の資格を取得後、札幌市に戻り、病院に勤務。退職後、清田区でグループホームの運営に携わり、令和2年に起業のため株式会社erを設立。令和4年、厚別区で一般型 児童発達支援・放課後デイサービス「個育てサポートしろくま」をオープン。令和5年、同厚別に、就労継続支援B型事業所「しろくま」オープン。同年、清田区のグループホームを承継し、新たに「グループホームaria」としてオープン。

看護師から福祉事業に参入

私はシングルマザーとして子どもを一人育てていました。無資格・未経験では就ける職業や収入は限られ、子どもと過ごす時間や生活の余裕も持てずに悶々と過ごしていた時期があります。そこで何かの資格を得ようと一念発起し看護学校で学び、看護師として病院に勤務しました。

現在でも看護師の世界は女性が中心の職場であるため、女性の育児・子育てには理解があると思っていたのですが、実際に待っていたのは夜勤、土日の勤務、時間外での研修などで、スキルを磨くことと育児の両立は難しいということを実感しました。また、女性中心の独特な環境では、それぞれの立場を守ろうと主張が強過ぎたり、年長者がややもすると独裁的になったりし意見がまとまらず、結果的に業務改善を目指しているにも関わらず逆に悪化してしま

うなど、次第に息苦しさを感じるようになっていきました。

確かに資格を有し専門職を得たことで、金銭的には余裕ができました。しかし、相変わらず子どもと接する時間はなく、このままこの生活を続けることに疑問が湧いてきたのです。

そこで「何か次のステップを考えなければ」「看護師の資格を活かせる他の仕事はないだろうか」などと模索していたところ、たまたま福祉事業に携わる人と出会い、経営を学ぶ機会を得ました。

当初はすぐに独立・起業を考えていたのですが、飛び込んだ「障がい者グループホーム」の仕事は、想像以上に過酷で、環境も劣悪なものでした。その頃はコロナ禍ということもあり、スタッフの当日欠勤や急な退職も頻繁に起こり、現場は常に人員不足。朝から晩まで最小人数での労働が続き、施設や介護に関する専

門知識や法規、スキルも独学で身につけなければならず、グループホームの運営ノウハウも教えてくれる相手もいないまま、ただ目の前の利用者さんの身の回りのお世話をこなす日々で、繋ぎとめられている現状でした。

サポートする側の自棄や混乱を敏感に察知した利用者さんは心身ともに不安定な状態に陥り、最悪の場合、自傷行為や他害行為に及ぶこともあり、働く側にも大きなリスクが生まれていました。経営を学ぶために関わった以上、このグループホームの業務改善を担い、事業を立て直すべく私自身も365日24時間体制で2年間過酷な状況に身を投じました。

しかしそんな状況では、子育てする時間があるはずもなく、令和2年とにかく起業しようと思いい、株式会社erを設立しましたが、実体もな



▲スタッフの皆さんと利用者さんの個室



▼ariaのバスルームと建物の外観

が多く寄せられ、当初は入浴など家庭での負担軽減を図る生活介護事業所の設置を考えましたが、今後の情勢や需要から判断し、就労継続支援B型事業所「しろくま」を令和5年4月にオープン。続いて7月には当初から関わりのあったグループホームも当社が引き継ぐこととなり、事業所名も新たに『グループホームaria』としてオープンしたところ

です。まだまだこれから実績を積み上げていかなければなりません、私の願いは、当社に関わる全ての人に「良かった」と思ってもらえるような会社でありたいと思っています。

社名に込められた企業理念

写真撮影する人はPhotographer。ダンスを踊る人はDancer。管理する人はManagerなど、英単語の語尾に「er」がつくのは、専門職や何かに特化して「する人」を指します。株式会社erで仕事をする全ての人には、それぞれ自分の個性や専門性を活かした「er」になってほし

いと思っています。その上で、当社では社名に因んだ4つの企業理念を設けています。

1. 理想とする経営理念は「呼吸ができる社会をつくる」こと。
2. 自分にしかできない何かを見つけて、くする人になろう（er）。
3. 助け合いを空気（air）を吸って吐くように自然なものにしよう。
4. 個を認め調和し、社会に必要とされる最強の集合体を目指そう。

それが実現した時、日本の社会から「息苦しさ」が消え、障がいのある人もない人も、互いにその人らしい価値を認め合う共生社会が実現するのではないのでしょうか。

●事業紹介

一般型児童発達支援・放課後デイサービス 個育てサポートしろくま

児童発達支援は障がいのある、もしくはその心配がある未就学児を対象とした通所施設です。0歳から6歳までの就学前の子を対象に療育支援を行っています。例えば「言葉の遅れがある、転びやすい」「集団生活が苦手」「車いすやバギーに乗った重度の

子ども対応をしてほしい」「喘息やてんかんに不安がある」など、子育ての困った、どうしよう、を地域やご家族、保育園、病院等と連携し一緒に考えています。また、当施設は一般型ですが、専門スタッフによる**医療的ケア児**の受け入れも行っていきます。

一方、放課後デイサービスは7歳から18歳までの就学中の方を対象に療育支援を行う事業です。小学生から高校生まで、それぞれのライフステージが必要となる学習支援、ソーシャルスキルトレーニングなどを行っています。

両サービスは、お子さんがどんな個性をお持ちなのか、何に対して困っているのか、そしてどのような生き苦しさを感じているのかなど、お預かりする中で見つけていくこととなります。乳幼児から児童、成人へと成長していく中で、一人ひとりの未来を考えた療育をスタッフが丸となってサポートさせていただいていますが、もちろんご家族が抱える様々な負担を軽減する家族支援も最重要視しています。定員数は10名。

就労継続支援B型事業所 しろくま（土日稼働型）

雇用契約を結ばなくても働くことができるB型の障がい者福祉サービスで、一般的な就労が困難な方の社会参加をサポートしています。対象者は、就労移行支援を受けても雇用に至らなかった方や障がい者認定を受け50歳に達しているか、1級の障がい基礎年金を受給している方などです。障が

グループホーム aria

障がいのある方が日常生活の支援を受けながら共同生活を送ることが出来る施設です。食事や掃除、入浴など必要なサポートを利用しながら、地域社会の中で共に暮らし自立を目指しています。利用者の条件は主に身体・知的・精神障がい者、発達障がい者、難病患者さんに該当する方で、18歳から65歳未満の方が対象。

日勤5名・夜勤8名体制の優秀なスタッフ（世話人・生活支援員・看護職員等）が利用者さんの共同生活をサポートし、現在10名（定員数）の方にご利用いただいています。介護サービス包括型の機能だけでなく、日中活動サービス支援型として重度心身障がい者（障がい支援区分5以上）の方を受け入れることも当社の特徴の一つです。重度障がい者を受け入れるグループホームは札幌市内でもまだまだ少なく、そのニーズにも応えています。

※NICU（新生児特定集中治療室）等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のこと。